

Factors associated with drug retention of mepolizumab in patients with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis: A multicentre REVEAL cohort study

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症におけるメポリズマブの継続率および継続因子の検討：

関西多施設共同 REVEAL コホート

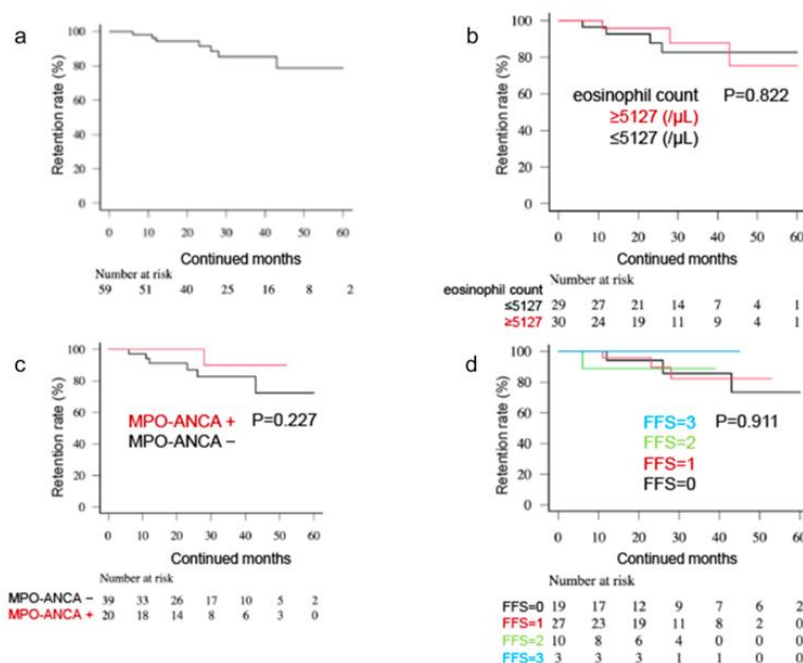
塩見 真由

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）に対して、IL-5 阻害薬であるメポリズマブ（MPZ）が 2018 年に本邦で承認されました。本研究は、関西多施設共同 REVEAL コホートを用いて、EGPA 患者における MPZ の継続率および継続に関わる因子を明らかにすることを目的としました。

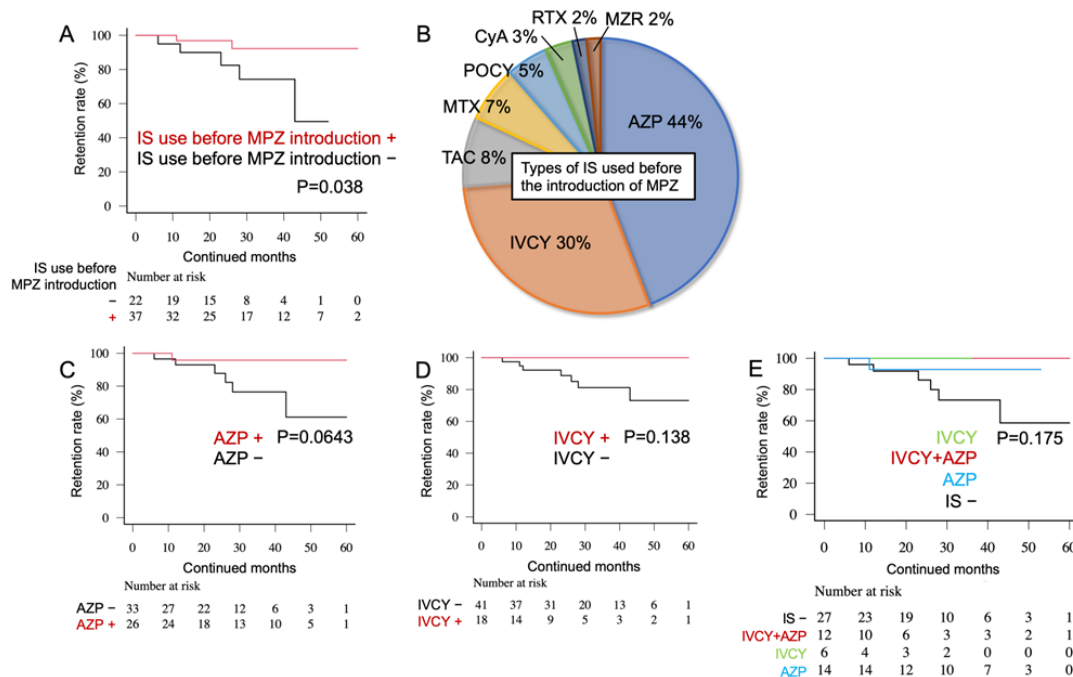
60 名の EGPA 患者を対象に、継続群と中止群に分けて比較、解析を行いました。その結果、MPZ の 5 年維持率は 78.7%と高いことが明らかになりました。特に免疫抑制剤の使用歴がある患者において継続率の向上を認めました。一方で、発症時の ANCA ステータスや好酸球数とは有意な関連を認めませんでした。また、MPZ 継続群では長期使用により不可逆的な臓器障害の抑制が期待されることを示しています。

本研究の意義は、ランダム化比較試験で示された MPZ の有効性を、実際の臨床環境において評価した点です。EGPA 治療における MPZ の有効性と安全性に関する新たな実臨床エビデンスを提供する研究です。

<https://doi.org/10.1093/mr/roae044>

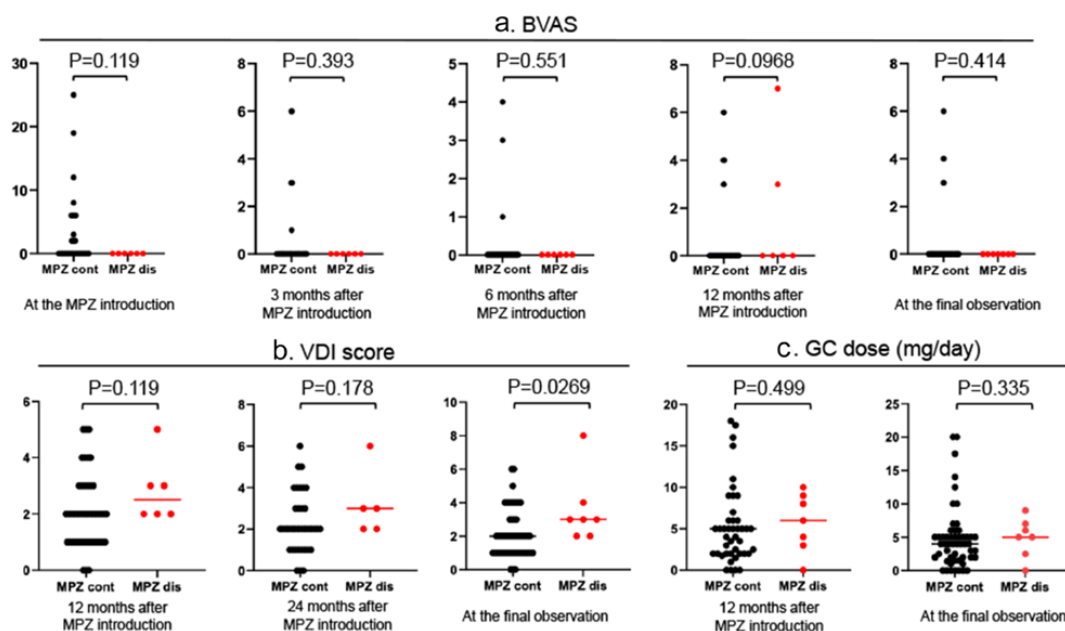


メポリズマブの5年継続率は78.7%



免疫抑制剤の使用歴があるとメボリズマブの継続率が高い

Shiomi M, et al. Mod Rheumatol 2024 May 10 roae:004, Figure 2



最終観察時
メボリズマブ継続例でVDIが低い

Shiomi M, et al. Mod Rheumatol 2024 May 10 roae:004, Figure 3